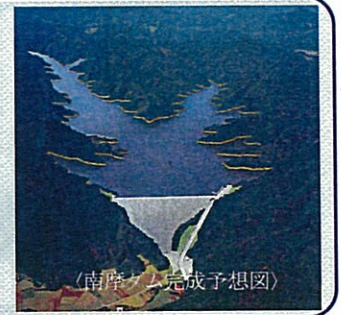


河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

# 思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所



## 第30回「栃木県水の週間」の実施について

8月1日の「水の日」を初日とする1週間は「水の週間」です。今年も全国で水に関する各種のイベントが開催されました。栃木県内では、「第30回全日本中学生水の作文コンクール栃木県審査会表彰式」が8月1日に栃木県公館にて行われました。県内応募総数507編の中から23名が表彰され、優秀賞を受賞した栃木市立栃木南中学校の森戸千浩さんが受賞者を代表して「イラクの子供から学んだこと」と題した作文を朗読しました。表彰式の後、思川開発建設所では、事業によって改変される場所に育成していた植物の一つ「ダイヤモンドソウ」を、表彰された生徒一人一人にプレゼントしました。



ダイヤモンドソウ



### 編集後記

朝晩にはめっきり秋の気配が感じられる季節になってきました。ところで、今年の夏の後半は局地的な豪雨があったり、四国では濁水になったりと、なにかと『水』が話題となる夏でした。その『水』ですが、地球上の水の約97.5%は海水などで淡水は約2.5%にすぎません。しかも、淡水のほとんどは南極や北極の氷で、私たちが比較的容易に利用できる水は河川や湖沼などで僅か0.01%でしかありません。豪雨や濁水はその僅かな割合の水の営みの中で発生しているということで、改めて地球の規模の大きさを感じた夏でもありました。



編集・発行所



独立行政法人 水資源機構

思川開発建設所  
〒320-0065 宇都宮市駒生町中丸3368  
Tel(028)622-8941 Fax(028)622-8945

鹿沼事務所  
〒322-0346 鹿沼市上南摩187-18  
Tel(0289)77-3888 Fax(0289)77-3890

ホームページ <http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>



## 工事の進捗状況

思川開発建設所では平成18年度に付替県道工事に着手し、現在付替県道工事（平成19年度末までの進捗約750m：全体に対する進捗率約12%）及びダム下流の工事用道路（現道拡幅）工事（平成19年度末時点での進捗約500m：全体に対する進捗率約54%）を中心に工事を進めています。平成23年度末にはダム本体工事の準備工としての仮排水路トンネル工事に着手し、平成23年度にはダム本体工事及び導水路工事に着手する予定です。地元自治会をはじめ地域の皆様のご理解とご協力のもと、順調に工事を進めて参りますので、よろしくお願い致します。

現在着手している主な工事は以下のとおりです。（平成20年8月19日現在）

### ◆ 県道上久我都賀栃木線室瀬工区改良工事



### ◆ 県道上久我都賀栃木線室瀬橋改良工事



## 利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画の全部変更

利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画の全部変更が7月4日に閣議決定されました。

今回の全部変更において、思川開発事業では利水計画の変更並びに事業工期の5年延伸（平成22年度→平成27年度）が正式に位置付けられました。

現在、水資源機構ではこの閣議決定を受け、思川開発事業の事業実施計画変更（第3回変更）に向けて法手続きを進めております。

## 平成21年度予算概算要求について

水資源機構では8月27日に平成21年度予算の概算要求を発表いたしました。平成21年度予算要求の全体額は2,378億円（対前年度比94.0%）です。

そのうち、思川開発建設所では、平成20年度予算に比べて約2億円増となる124億円を要求しました。

平成21年度の主な実施内容は、ダム本体発注を間近に控え、今年度末頃に発注される河川の切り回しの転流工及び放流設備、工用道路工事並びに付替道路工事等の進捗を図っていきます。

また、新たに導水路関連工事として黒川導水路取水地点と大芦川導水路取水地点の立坑及びダムへの流水の出口となる南摩注水工などに着手します。

その他、構造物設計に必要な地質調査、ダム本体、水理調査、環境調査及び設計委託を実施していく予定です。



## 南摩中学校の旧梶又小学校見学

「梶又ハイキング&地域清掃」

平成20年6月18日（水）に、鹿沼市立南摩中学校の主催で「梶又ハイキング&地域清掃」が開催されました。この行事は、南摩ダムが建設される上南摩地域の自然に親しみながら、自然と人間との関わり合いを理解することを目的とするもので、全校生徒86名が参加しました。

思川開発建設所では、普段は現地作業の拠点として活用している「梶又小学校（旧梶又小）」を開放し、この行事に協力しました。梶又小学校は、明治17年に上南摩学校梶又分舎が設立されて以来、児童の教育と共に、地域交流の場として、上南摩の人々に親しまれてきましたが、南摩ダムの建設に伴い、平成16年3月30日に閉校となった小学校です。

旧梶又小に到着した生徒達は、建設所の職員によるダム事業の説明を受けてから、校舎内を見学しました。初めて入る木造校舎に、生徒達は興味津々のようで、目を輝かせながら散策をしていました。清掃活動では、旧梶又小を中心に積極的に取り組みました。普段は静かな山あい、生徒達の元気な声がこだましていました。

最後に、久しぶりに子供達の元気な声が響き渡った旧梶又小も、閉校になってからは校舎の老朽化が進み、ダム工事も本格化することから、大変残念ではありますが、この勇姿も後少しとなりそうです。



旧梶又小



木造校舎を見学する生徒達



ダム事業の説明



清掃活動の様子